

自然環境調査結果報告 — 概要版 —



令和元年度
陸域編

ひらつか生物多様性推進協議会

1. はじめに

平塚市には、西部丘陵、河川、海浜等に多様な生物が生息する豊かな自然環境が残されていますが、農地、屋敷林の減少や宅地の開発等による緑の減少に伴い様々な生きものへの影響が危惧されています。

このため、平塚市は、かながわ生物多様性計画及び平塚市環境基本計画に基づき生物多様性を保全するための「平塚市生物多様性アクションプラン」を策定する計画です。また、アクションプラン策定の基礎資料として、ひらつか生物多様性推進協議会が、令和元年度から3カ年で、平塚市内の自然環境調査を実施しています。良好な里地里山環境が残されているエリアの自然環境の現状を把握し、それを自然環境評価書にまとめる計画です。この冊子では、令和元年度に実施した自然環境調査結果の概要をまとめました。

2. 調査エリア

自然環境調査の調査範囲（以下、調査エリアという）の位置を図1に示しました。

調査は①上吉沢地区②土屋霊園周辺③愛宕裏地区④びわ青少年の家周辺⑤土屋里山体験フィールド周辺⑥高麗山公園地区⑦総合公園の計7エリアで実施しました。

このうち、①～⑥は平塚市において良好な里地里山の環境が残されているエリアであり、⑦の総合公園は、①～⑥のエリアの対照区として、都市部においてまとまった緑地が存在するエリアとして、選定したものです。



図1 調査エリアの位置（①～⑦）

3. 調査方法

調査は、春季(2019年3月～5月および2020年3月)、夏季(2019年6月～8月)、秋季(2019年9月～11月)、冬季(2019年12月～2020年2月)です。

植物、動物(昆虫類、鳥類、両生類・爬虫類、哺乳類、魚類・甲殻類・貝類)の分類群を対象とし、現地調査により行いました。植物、昆虫類、哺乳類は、あらかじめ、平塚市の良好な自然環境を指標する種類(以下、指標種という)を設定し、指標種の生育、生息状況を確認しました。哺乳類はカヤネズミ1種類を対象としました。鳥類、両生類・爬虫類、魚類・甲殻類・貝類(水生)は全種類を対象に調査し、魚類・甲殻類・貝類については調査結果から今後指標種とする種を選定しました。

4. 調査結果

植物、動物の現地調査実施状況は、表1に示すとおりです。

表1 調査時期と調査日

分類	時期	調査日
植物	春季	2019/4/1,4,7,15,23,29,5/5,6,11,12,18,23,25 2020/3/20
	夏季	2019/6/1,5,6,8,20,23,30,7/24,8/25,27
	秋季	2019/9/2,3,11,23,26,10/10,15,17,21
昆虫類	春季	2019/4/29,5/2,6,11,12,13,15,20,24,25,29,30,2020/3/18
	夏季	2019/6/1,2,3,4,6,8,11,13,19,23,26,29,30,7/6,7,9,10,12,13,17,18,24,30,8/1,4,6,9,11,13,17,22,24,25,27,29,31
	秋季	2019/9/1,10,15,17,20,10/2,4,15,11/19,30
鳥類	春季	2019/3/2,9,17,4/6,7,8,9,10,11,13,14,15,16,19,22,24,25,28,29,5/2,4,5,6,7,8,9,10,11,12,13,15,16,17,19,20,22,27,29, 2020/3/7,8,9,10,16,17,18
	夏季	2019/6/1,2,3,4,5,6,8,9,11,12,13,14,17,25,7/6,24,25,30,31,8/1,4,5,6,7,8,13,18,19,20,22,26
	秋季	2019/9/1,2,3,4,10,11,12,13,14,15,16,17,26,29,10/2,7,8,9,15,16,19,11/2,4,5,6,9,12,15
両生類・爬虫類・哺乳類	春季	2019/3/9,11,20,21,31,4/7,25,29,5/2,5,6,7,9,10,12,19,23,25 2020/3/11,12,17,19,21,24
	夏季	2019/6/6,8,23,26,29,30,7/7,13,18,24,30,8/1,6,11,20,27
	秋季	2019/9/10,12,15,28,30,10/15,23,24,26,27,11/4,10,19,30
魚類・甲殻類・貝類	春季	2019/5/2,30
	夏季	2019/6/29,7/25
	秋季	2019/10/24
	冬季	2019/12/19

調査エリア毎の動植物の確認状況を次ページ以降に示します。



植物班

魚類・甲殻類班

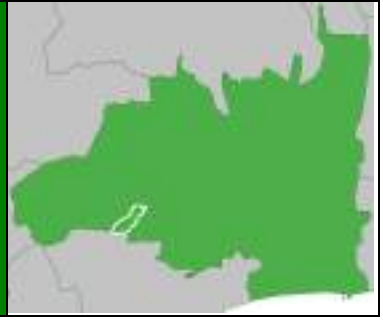


写真1 調査風景



鳥類班

① 上吉沢地区 (面積約 46ha)



■ 概要

上吉沢地区の尾根道には、雄大な大山を望む菜の花畑が広がっています。開放的な丘を越えると、景色は一変し、鷹取山山麓には二次林が広がり、南側には水の浸食によって形成された谷が見られ、不動川支流の宮下川が流れています。

樹林環境と草地環境が豊富で、多様な生物を確認することができるエリアです。



■確認された種類

表2 上吉沢地区で確認された種

指標種調査

植物	樹林指標種	キチジョウソウ、ヤマコウバシ、ヒトリシズカ等 8 種	計 17 種
	草地指標種	ツリガネニンジン、ミツバツチグリ、オカトラノオ等 7 種	
	水辺指標種	キツリフネ、ミゾホオズキの 2 種	
昆虫類	樹林指標種	クツワムシ、ハンミョウ、ウラナミアカシジミ等 13 種	計 25 種
	草地指標種	ジャノメチョウ、ショウリョウバッタモドキ、マツムシ等 9 種	
	水辺指標種	ミルンヤンマ、ニホンカワトンボ、ホタルトビケラの 3 種	

全種調査

鳥類	メジロ、キビタキ、アオゲラ等 74 種
両生類・爬虫類、哺乳類	ヤマアカガエル、アズマヒキガエル、ヒバカリ、カヤネズミ等 6 種
魚類・甲殻類・貝類	アブラハヤ、サワガニ、カワニナ等 11 種

植物



ヤマコウバシ



ミゾホオズキ



オカトラノオ

昆虫類



クツワムシ



マツムシ



ハンミョウ

鳥類



メジロ



キビタキ



アオゲラ

両生類・爬虫類、哺乳類、魚類・甲殻類・貝類



アブラハヤ

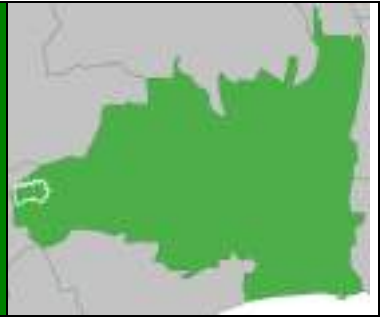


サワガニ



カワニナ

② 土屋霊園周辺（面積約 67ha）



■概要

土屋霊園は、市街地から約 13km の平塚市の西端に位置し、足柄上郡中井町に隣接する場所にあります。

周辺台地は小字「遠藤原」と呼ばれる畑地が広がり、丹沢山麓を望む景観はすばらしく、多様性の高い二次林に囲まれた静かな環境があります。駒ヶ滝の谷戸は、湿地性生物の種類が豊富です。



■ 確認された種類

表3 土屋霊園周辺で確認された種

指標種調査

植物	樹林指標種	コ克蘭、ヤマコウバシ、カマツカ等 6 種	計 23 種
	草地指標種	タムラソウ、クサボケ、ツリガネニンジン等 11 種	
	水辺指標種	オモダカ、ツリフネソウ、ミゾホオズキ等 6 種	
昆虫類	樹林指標種	クツワムシ、ウスタビガ、タマムシ等 16 種	計 38 種
	草地指標種	クルマバツタ、スズムシ、ジャノメチョウ等 8 種	
	水辺指標種	ミルンヤンマ、コバネササキリ、タイコウチ等 14 種	

全種調査

鳥類	ツグミ、カシラダカ、ヒバリ等 63 種
両生類・爬虫類、哺乳類	ツチガエル、ヤマアカガエル、ヒガシニホントカゲ、カヤネズミ等 6 種
魚類・甲殻類・貝類	カワニナ、スジエビ、ドジョウ等 11 種

植物



コ克蘭



タムラソウ



クサボケ

昆虫類



ミルンヤンマ



コバネササキリ



ウスタビガ

鳥類



ツグミ



カシラダカ



ヒバリ

両生類・爬虫類、哺乳類、魚類・甲殻類・貝類

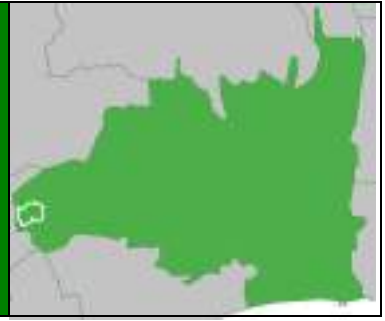


ツチガエル



ヤマアカガエル

③愛宕裏地区（面積約 48ha）



■概要

平塚北西の七国峠の近くには標高 115mの愛宕山があり、山頂には約 0.74ha の愛宕山公園があります。

愛宕山を下ると谷戸景観が広がります。このエリアでは他のエリアでは確認することが少ない動植物が確認されています。



■ 確認された種類

表4 愛宕裏地区で確認された種

指標種調査

植物	樹林指標種	イチヤクソウ、シュンラン、ツクバネウツギ等 6 種	計 19 種
	草地指標種	ツリガネニンジン、ヒメハギ、ミツバツチグリ等 10 種	
	水辺指標種	オモダカ、チダケサシ、ミゾホオズキの 3 種	
昆虫類	樹林指標種	トゲナナフシ、ゴイシシジミ、ゴマダラチョウ等 14 種	計 33 種
	草地指標種	ヒガシキリギリス、ジャノメチョウ、クルマバッタ等 7 種	
	水辺指標種	ニホンカワトンボ、キンヒバリ、シオヤトンボ等 12 種	

全種調査

鳥類	ヤマガラ、ウグイス、トラツグミ等 55 種
両生類・爬虫類、哺乳類	アカハライモリ、ヒバカリ、カヤネズミ等 8 種
魚類・甲殻類・貝類	カワニナ、サワガニ、ホトケドジョウ等 4 種

植物



ツリガネニンジン



ヒメハギ



チダケサシ

昆虫類



トゲナナフシ幼虫



ヒガシキリギリス 幼虫



ニホンカワトンボ 幼虫

鳥類



ヤマガラ



ウグイス



トラツグミ

両生類・爬虫類、哺乳類、魚類・甲殻類・貝類



アカハライモリ



ヒバカリ

④びわ青少年の家周辺 (面積約 53ha)



■概要

びわ青少年の家の敷地や周辺地域には、ノアザミ、ワレモコウ等が多数生育する草地が見られます。

エリア内には、コナラ、クヌギ等の良好な二次林が広がっています。谷戸には、シオヤトンボやキンヒバリなどを始めとする多くの湿地性生物が生息しています。



■確認された種類

表5 びわ青少年の家周辺で確認された種

指標種調査

植物	樹林指標種	シュンラン、カマツカ、ヤマコウバシ等 6 種	計 16 種
	草地指標種	フユノハナワラビ、ミツバツチグリ、ノアザミ等 8 種	
	水辺指標種	オモダカ、チダケサシの 2 種	
昆虫類	樹林指標種	タマムシ、ゴイシシジミ、トゲナナフシ等 11 種	計 31 種
	草地指標種	オナガササキリ、ヒガシキリギリス, ジャノメチョウ等 8 種	
	水辺指標種	ケラ、コオイムシ、シオヤトンボ等 12 種	

全種調査

鳥類	シジュウカラ、ジョウビタキ、コジュケイ等 67 種
両生類・爬虫類、哺乳類	シュレーゲルアオガエル, ツチガエル, ヒガシニホントカゲ, カヤネズミの 4 種
魚類・甲殻類・貝類	シマヨシノボリ、カワリヌマエビ属の 2 種

■ 植物



フユノハナワラビ



ミツバツチグリ



ノアザミ

■ 昆虫類



タマムシ



ケラ



コオイムシ 幼虫

■ 鳥類



シジュウカラ



ジョウビタキ



コジュケイ

■ 両生類・爬虫類、哺乳類、魚類・甲殻類・貝類



シュレーゲルアオガエル

⑤土屋里山体験フィールド 周辺

(面積約 35ha)



■概要

コナラやクヌギ等で構成される二次林が帯状に続いており、谷戸田や素掘りの水路、草地等良好な里山の自然が残されています。

そのような樹林と水辺がセットで存在している環境を反映して、植物や昆虫などの分類群で多くの種類を確認することができます。



■確認された種類

表6 土屋里山体験フィールド周辺で確認された種

指標種調査

植物	樹林指標種	カマツカ、イチヤクソウ、シュンラン等 4 種	計 11 種
	草地指標種	クサボケ、ワレモコウ、ノアザミ等 6 種	
	水辺指標種	オモダカ 1 種	
昆虫類	樹林指標種	クツワムシ、ウスタビガ、ゴマダラチョウ等 10 種	計 24 種
	草地指標種	ジャノメチョウ、オナガササキリ、カンタン等 8 種	
	水辺指標種	カトリヤンマ、シオヤトンボ、キンヒバリ等 6 種	

全種調査

鳥類	ヒヨドリ、エナガ、シメ等 56 種
両生類・爬虫類、哺乳類	シュレーゲルアオガエル、ヒガシニホントカゲ、カヤネズミ等 7 種
魚類・甲殻類・貝類	ドジョウ、サワガニ、カワニナ等 4 種

■植物



カマツカ



イチヤクソウ



オモダカ

■昆虫類



カンタン



カトリヤンマ

■鳥類



ヒヨドリ



エナガ



シメ

■両生類・爬虫類、哺乳類、魚類・甲殻類・貝類



カヤネズミ



ドジョウ

⑥高麗山公園地区 (面積約 61ha)



■概要

高麗山公園エリアは、人為的な干渉を受けていない植生を彷彿とする樹林帯を観察することができます。異なった景観を持つ6つのハイキングコースとも様々な種類の樹林によって構成され、丹沢山地から海へ海水を飲みに通うアオバトの中継地点にもなっています。



■確認された種類

表7 高麗山公園地区で確認された種

指標種調査

植物	樹林指標種	ヒトリシズカ、キチジョウソウ、ウラシマソウ等 5 種	計 11 種
	草地指標種	ツリガネニンジン、ワレモコウ、タムラソウ等 6 種	
	水辺指標種	—	
昆虫類	樹林指標種	ニホントビナナフシ、コマダラウスバカゲロウ、ヒオドシチヨウ等 10 種	計 18 種
	草地指標種	ヒガシキリギリス、スズムシ、オナガササキリ等 6 種	
	水辺指標種	ミルンヤンマ、ケラの 2 種	

全種調査

鳥類	アオバト、アカハラ、コゲラ等 69 種
両生類・爬虫類、哺乳類	アズマヒキガエル、ヤマカガシ、ニホンヤモリの 3 種
魚類・甲殻類・貝類	サワガニ 1 種

植物



ヒトリシズカ



キチジョウソウ



ワレモコウ

昆虫類



ニホントビナナフシ



コマダラウスバカゲロウ幼虫



ミルンヤンマ

鳥類



アオバト



アカハラ



コゲラ

両生類・爬虫類、哺乳類、魚類・甲殻類・貝類



アズマヒキガエル 幼体



ヤマカガシ

⑦総合公園（面積約30ha）



■概要

野鳥の森の中央に位置する池では、コガモが冬を越す他、時にはカワセミやアオサギも姿を見せます。周囲の森では、シロハラやアオジ、シメ等の冬鳥を見かけます。野鳥の森は人の立ち入りが制限されていますが、木で作られた壁にはのぞき穴が施され、気軽に鳥の観察を楽しめるようになっています。総合公園エリアは都市部としては多くの生きものを確認することができます。



■確認された種類

表8 総合公園エリアで確認された種

指標種調査

植物	樹林指標種	ウラシマソウ1種	計2種
	草地指標種	—	
	水辺指標種	ツボスミレ1種	
昆虫類	樹林指標種	ジャコウアゲハ、ゴマダラチョウ、クロカナブン、タマムシの4種	計5種
	草地指標種	ショウリョウバッタモドキ1種	
	水辺指標種	—	

全種調査

鳥類	ムクドリ、オナガ、カワラヒワ等43種
両生類・爬虫類、哺乳類	—
魚類・甲殻類・貝類	(未調査)※

※魚類・甲殻類・貝類は調査できる環境がなかったため実施せず

■植物



ウラシマソウ



ツボスミレ

■昆虫類



ジャコウアゲハ



ゴマダラチョウ



クロカナブン

■鳥類



ムクドリ



オナガ



カワラヒワ

生物多様性とは

地域を特徴づける自然があり、その環境ごとに特有の生きものがあること、そしてそれぞれがつながっていることです。

生態系の多様性

森林や里山、河川に湿原、干潟等さまざまなタイプの自然があること

生物多様性

種の多様性

生きものの種類が多いこと

遺伝子の多様性

同じ種類でも遺伝子レベルでの違いがあり、個性豊かであること